

9. 配慮項目の概要と配慮事項

9. 配慮項目の概要と配慮事項

「7.1.2 環境影響要素の抽出及び環境影響評価項目の選定」において選定した配慮項目における配慮事項は、表 9-1～表 9-11に示すとおりである。

表 9-1 配慮項目(大気質)

環境影響要素		環境影響要因		配慮事項
大気質	粉じん	工事による影響	掘削	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事中の計画地からの粉じんの飛散を防止するため、計画地東口には高さ 3m の囲いを設置する。また、掘削工事等において、空気が乾燥し風の強い日等、粉じんの発生が認められる場合には適宜散水を行い、粉じんの発生や飛散を防止する。 ・ 土砂運搬等の粉じんの飛散が起こりやすい工事用車両については、カバーシート等の使用を促し、必要に応じて散水を行い、粉じんの飛散を防止する。 ・ 工事用車両の出入り口には適宜清掃員を配置し、清掃に努めることで粉じんの発生を最小限にする。
			既存建築物の取り壊し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事中の計画地からの粉じんの飛散を防止するため、計画地東口には高さ 3m の囲いを設置する。また、掘削工事等において、空気が乾燥し風の強い日等、粉じんの発生が認められる場合には適宜散水を行い、粉じんの発生や飛散を防止する。 ・ 作業員に対し、集じん・排気装置の適切な使用について指導を徹底する。なお、指導に当たっては「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル」(環境省水・大気環境局大気環境課)を参考にし、特に集じん・排気装置のフィルターの適切な交換や稼働前のフィルターの取付状態の確認等について配慮する。 ・ 集じん・排気装置が適切に使用されていることを確認する方法として排出等作業の周辺環境の測定の実施が有効であることから、排出等作業を行う者に対し、指導を徹底する。

表 9-2 配慮項目(振動)

環境影響要素		環境影響要因		配慮事項
振動	振動	供用による影響	(商業・宿泊施設等) 施設の稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防振ゴム、ダンパ(減衰要素)等の防振材料を空調機等に設置することにより振動の影響を回避する。 ・ 低振動型の空調等を設置することにより、振動の影響を最小限にする。

表 9-3 配慮項目(低周波音)

環境影響要素		環境影響要因		配慮事項
低周波音	低周波音	供用による影響	(商業・宿泊施設等) 施設の稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防振ゴム、ダンパ(減衰要素)等の防振材料を空調機等に設置することにより低周波音の影響を回避する。 ・ 低騒音型の空調等を設置することにより、低周波音の影響を最小限にする。

表 9-4 配慮項目(悪臭)

環境影響要素		環境影響要因		配慮事項
悪臭	悪臭	供用による影響	(商業・宿泊施設等) 施設の稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・排出口の位置、高さ及び方向並びに排気設備の能力及び構造などを考慮し、換気用フードの吸引方法などを工夫し、悪臭が外部に漏れないよう努める。 ・換気設備については、ダクト中に金網やフィルターを設置し、オイルミストなどを捕集し、悪臭が外部に漏れないよう努める。 ・汚水ピットは、排水槽に異物や油脂分が流入しないよう努める。 ・日常的な保守点検や清掃を行い、設備を最適な状態に保つよう努める。

表 9-5 配慮項目(水質)

環境影響要素		環境影響要因		配慮事項
水質	水の汚れ	工事による影響	工事に伴う排水	<ul style="list-style-type: none"> ・降雨時の濁水及び湧水は、沈砂槽等による処理をした後に公共下水道の雨水管へ放流する。 ・公共用下水道への排水に際しては下水道担当部局との協議を行う。 ・工事による汚水は、沈砂槽等による処理(下水排水基準: BOD600ppm, SS250ppm, pH 値 5~9)し公共下水道へ排水する。また、し尿は汲み取り式とする予定であり、公共下水道へは排水しない。
	水の濁り			
	水の汚れ	供用による影響	(商業・宿泊施設等) 施設の稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・一般生活排水(便器洗浄排水、手洗い洗面排水)は、汚水と雑排水の分流方式として計画し、屋外にて合流後、公共下水道汚水管に直接接続放流する計画とする。 ・厨房排水は、グリストラップにて油分を除去した後、屋外厨房除外設備にてばっ気循環、汚泥除去処理し、下水道排水基準を満足することを確認した上で公共下水道汚水管へ排水する。さらに中水設備を設けることで水資源の再利用を行う。 ・雨水は、計画地東側に雨水枳を布設する計画とする。

表 9-6 配慮項目(地盤沈下)

環境影響要素		環境影響要因		配慮事項
地盤沈下	地盤沈下	供用による影響	(商業・宿泊施設等) 施設の稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、上水系統・中水系統・冷却塔補給水の全ての給水源を市水とする計画である。 ・井水を利用する場合には、計画使用量は揚水試験等により把握して、適切な使用量となるように計画する。

表 9-7 配慮項目(土壌汚染)

環境影響要素		環境影響要因		配慮事項
土壌汚染	土壌汚染	工事による影響	既存建築物の取り壊し、掘削、新築	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地は砒素等を含有する可能性のある土壌となっている。したがって、基準不適合土壌となることが考えられるため、土壌汚染対策法に基づき、適切に調査・処置を行う。 ・具体的には、調査の結果、基準に適合しない土壌については、汚染の区分に応じた、適切な対策を行う。

表 9-8 配慮項目(植物)

環境影響要素		環境影響要因		配慮事項
植物	樹木及び樹林地等 (緑の量)	存在による影響	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業においては、自然地形の改変及び樹木の伐採は行わない。 ・本事業における緑化面積は、「杜の都の環境をつくる条例」の緑化基準を満足する屋上緑化を行い、その屋上緑化が東西自由通路から視認できるように計画上の配慮をすることで、宮城野通、青葉通等との連続性を確保するように努める。 ・四季の彩り(花、紅葉、実、落葉・常緑など)が感じられる仙台市の公園や街路で採用実績が豊富な樹種を主体として、「ビオトープ復元・創造ガイドライン」(平成10年 仙台市)において、市街地における環境保全種(ふれあい種)や環境目標種(ふるさと種)等を植栽する計画とする。 ・植物が健全に生育できる環境を確保するため、実施設計における樹木の生育環境、施工方法、維持管理方法の検討を行う。

表 9-9 配慮項目(動物)

環境影響要素		環境影響要因		配慮事項
動物	動物相及び注目すべき種	存在による影響	工作物等の出現	<ul style="list-style-type: none"> ・計画建築物のガラスは、ミラーガラスのような周囲の景色がガラス面に映りこむ高反射な仕様のガラスは使用せず、鳥の衝突の防止に努める。

表 9-10 配慮項目(生態系)

環境影響要素		環境影響要因		配慮事項
生態系	地域を特徴づける生態系	存在による影響	工作物等の出現	<ul style="list-style-type: none"> ・計画建築物のガラスは、ミラーガラスのような周囲の景色がガラス面に映りこむ高反射な仕様のガラスは使用せず、鳥の衝突の防止に努める。
		供用による影響	(商業・宿泊施設等)施設の稼働	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業における緑化面積は、「杜の都の環境をつくる条例」の緑化基準を満足する屋上緑化を行い、その屋上緑化が東西自由通路から視認できるように計画上の配慮をすることで、計画地の緑の量的な増加を図り、宮城野通、青葉通等との連続性を確保するように努める。

表 9-11 配慮項目(温室効果ガス等)

環境影響要素		環境影響要因		配慮事項
温室効果ガス等	オゾン層破壊物質	供用による影響	(商業・宿泊施設等)施設の稼動	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業においては、オゾン層の破壊に影響力を持つ物質を使用する機器の設置を配置しないように努める。
温室効果ガス等	熱帯材使用	工事による影響	建築物等の建築	<ul style="list-style-type: none"> ・熱帯木材を原料とする型枠は極力使用を控える。 ・型枠はできるだけ非木質のものを採用し、基礎工事や地下躯体工事においては、計画的に型枠を転用することに努める。 ・木材型枠を使用する場合でも、転用回数を増やすことなどにより、使用量削減を図る。